

2015年3月26日

報道関係者 各位

ライフネット生命保険株式会社

～消費増税から1年。2015年、今年こそ見直したいものに関する調査～

■8%への消費増税からもうすぐ1年。家計のやりくりはどう変化した？

- ◆ 2014年4月以降、「所得減った」4人に1人。一方で、「支出増えた」6割
- ◆ 削ってしのぐ日々！？増税後「貯蓄減った」4割半、「お小遣い減った」3割半
- ◆ 消費者のホンネ。「家計のやりくり苦しくなった」6割、「節約意識高くなった」6割

■消費増税以降、どのようなことを見直した？

- ◆ 耐え忍ぶ“ガマン型節約”が上位独占！1位「外食・飲み会」2位「衣類・雑貨」
涙ぐましい努力多数。「飲み会不参加」「旅行中止」「トイレの水は2回目で…」
- ◆ 一度の見直しでムダ解消！“スッキリ型節約”実施は少数派！？
“スッキリ型節約”の代表格「生命保険料」は、「見直していない」9割
- ◆ 流行に乗った見直し。「格安SIM移行」で通信費削減も

■消費増税以降に実施した見直し。効果のほどは？

- ◆ 月々いくら節約できた？平均額は「5,318円」。月に「50,000円以上」という人も！
- ◆ 節約がもたらす意外なメリットも！？「家族で食卓を囲む回数が増えた」「ダイエット」
節約が「子どもの金銭教育になった」との声も！

■2017年4月に予定される10%への消費増税に向けて、今年見直したいものは？

- ◆ 消費税10%に向けても、「外食・飲み会」などの“ガマン型節約”が主流！？
- ◆ 次の節約ではどこに切り込む？今年、「通信費」が見直し対象として注目度アップ
- ◆ 人生で2番目に高い買い物「生命保険料」を見直す、わずか1割

■もしも、人生を見直せるなら？

- ◆ 人生で見直したいもののトップは「学生生活を見直したい」4割
- ◆ 3割が「仕事・キャリアを見直したい」
- ◆ 結婚後「残念な夫」になってない？既婚女性の3割が「結婚相手を見直したい」

本リリース内容の転載に際しては、「ライフネット生命調べ」とご記載ください。

グラフデータは、ライフネット生命ウェブサイトよりご利用いただけます。

<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/>

本件に関するお問い合わせ先

ライフネット生命保険株式会社 マーケティング部: 関谷

TEL: 03-5216-7900

ライフネット生命保険株式会社

Copyright© LIFENET INSURANCE COMPANY All rights reserved.

アンケート総括

ライフネット生命保険株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長兼 COO 岩瀬大輔)は2015年2月11日~16日の6日間、20~59歳の男女を対象に、「消費増税から1年。2015年、今年こそ見直したいものに関する調査」をモバイルリサーチ(携帯電話によるインターネットリサーチ)で実施、1,000名の有効回答を集計しました。

■8%への消費増税からもうすぐ1年。家計のやりくりはどう変化した?

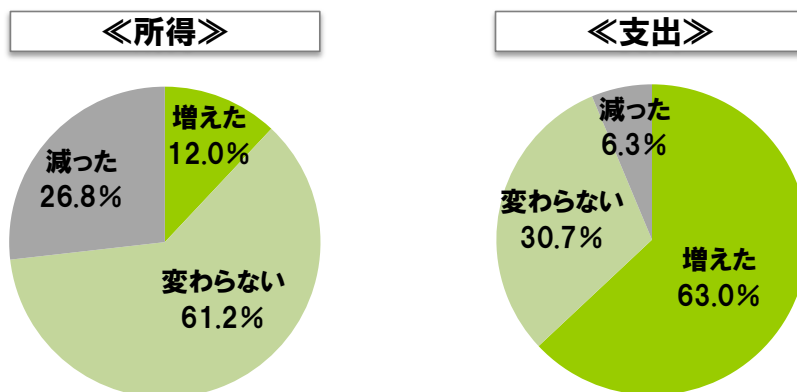
- ◆ **2014年4月以降、「所得減った」4人に1人。一方で、「支出増えた」6割**
- ◆ **削ってしのぐ日々!? 増税後「貯蓄減った」4割半、「お小遣い減った」3割半**
- ◆ **消費者のホンネ。「家計のやりくり苦しくなった」6割、「節約意識高くなった」6割**

昨年4月に消費税が8%へ増税されてもうすぐ1年が経過しますが、この1年で家計に何らかの変化があったという方もいるのではないのでしょうか。そこで、20~59歳の男女1,000名に、昨年4月以降、家計のやりくりについてどのような変化があったかを聞きました。

《所得》については、「増えた」が1割(12.0%)に対し、「減った」が2割半(26.8%)で、どちらかというとなり減少傾向にあるようです。

一方、《支出》については、「増えた」が6割(63.0%)となりました。増税はもちろん、昨年は円安の進行による値上がりもあり、これらが支出の増加に影響しているのかもしれませんが。

- ◆2014年4月の消費増税以降、家計のやりくりについて
どのような変化があったか(各単一回答)
全体【n=1000】

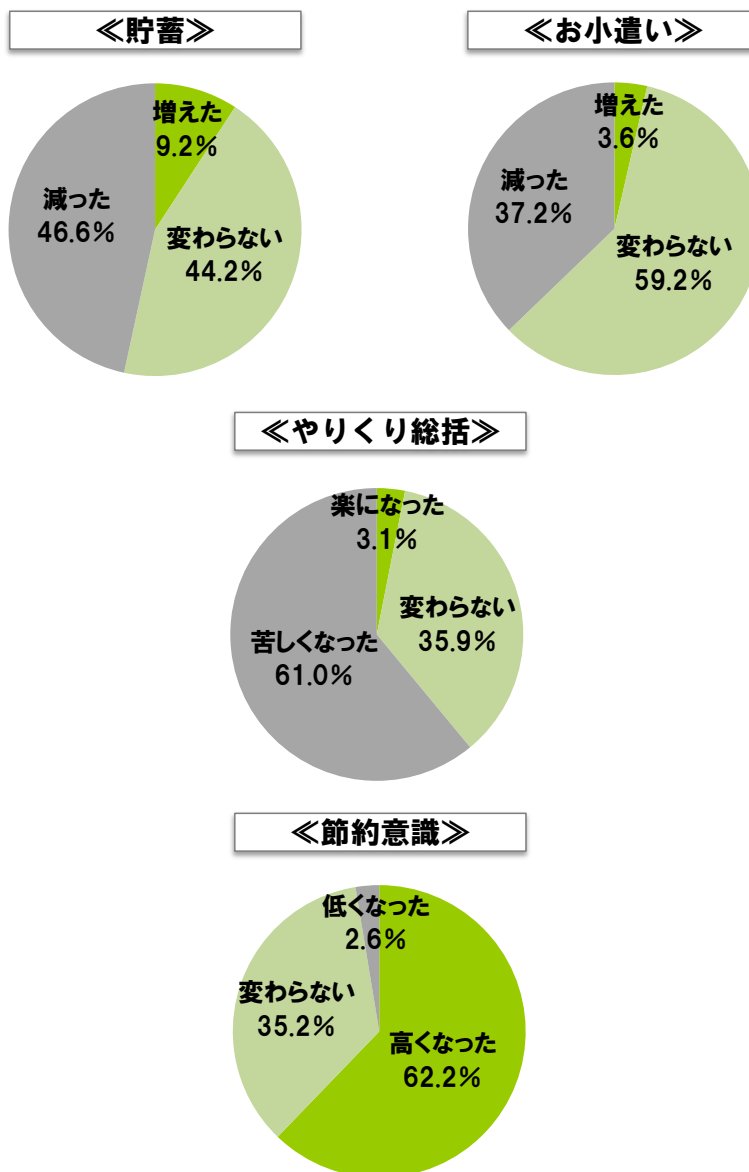


《貯蓄》については、「増えた」が1割(9.2%)に対し、「減った」が4割半(46.6%)と、貯蓄を切り崩し生活している人が多い傾向となっています。

また、《お小遣い》については、「増えた」が1割未満(3.6%)に対し、「減った」が3割半(37.2%)となりました。

家計のやりくりを総括すると、2014年4月の消費増税後に家計が「苦しかった」(61.0%)が多数派となりました。そのような状況にあるためか、《節約意識》が「高くなった」との回答が6割(62.2%)となりました。節約することでどうにかやりくりをしなければ、という思いの表れでしょうか。

◆2014年4月の消費増税以降、家計のやりくりについて
 どのような変化があったか (各単一回答)
 全体[n=1000]



■消費増税以降、どのようなことを見直した？

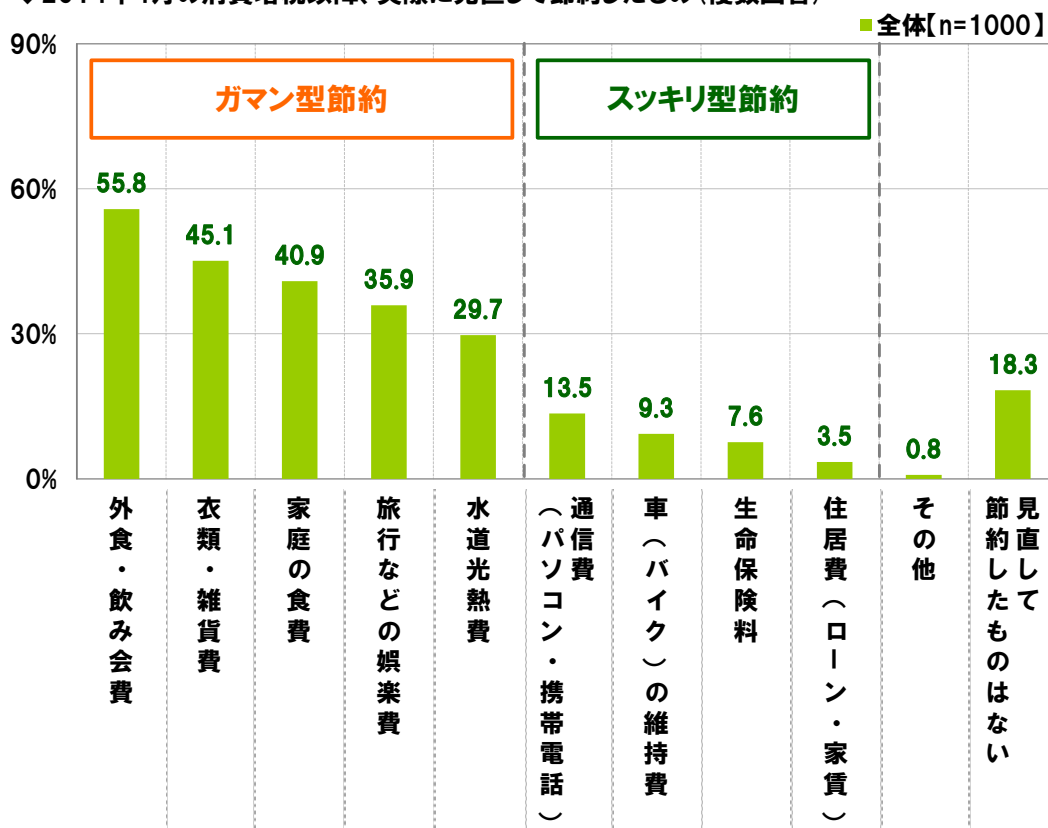
- ◆ **耐え忍ぶ“ガマン型節約”が上位独占！ 1位「外食・飲み会」 2位「衣類・雑貨」**
涙ぐましい努力多数。「飲み会不参加」「旅行中止」「トイレの水は2回目で…」
- ◆ **一度の見直しでムダ解消！ “スッキリ型節約”実施は少数派！？**
“スッキリ型節約”の代表格「生命保険料」は、「見直していない」9割
- ◆ **流行に乗った見直し。「格安SIM移行」で通信費削減も**

では、昨年4月以降、どのような対策をしてやりくりしてきたのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、実際に見直して節約したのものについて聞いたところ、「外食・飲み会費」(55.8%)がもっとも高くなりました。以下、「衣類・雑貨費」(45.1%)、「家庭の食費」(40.9%)、「旅行などの娯楽費」(35.9%)、「水道光熱費」(29.7%)の順に割合が高く、日々の生活で何かを我慢する“ガマン型節約”が上位5項目を占めました。

他方、「通信費(パソコン・携帯電話)」(13.5%)、「車(バイク)の維持費」(9.3%)、「生命保険料」(7.6%)、「住居費(ローン・家賃)」(3.5%)は1割半以下にとどまり、一度見直せば節約効果がしばらく継続する“スッキリ型節約”を実施した方は少ないようです。

◆2014年4月の消費増税以降、実際に見直して節約したもの(複数回答)



続いて、実際に見直して節約したものがあある方(817名)に、見直しの具体的な行動の一例を自由回答で挙げてもらったところ、工夫を凝らした節約術から、耐え忍ぶ節約まで、様々な回答がありましたのでいくつか紹介します。

食費(外食費)の見直しでは、「食料品は特売の品を買う」(40代女性)、「食材の買い溜めをやめ、使い切るようなメニューにしている」(50代女性)といった地道な節約のほか、「飲み会の参加を減らした」(40代男性)という切実な行動もありました。

水道光熱費の見直しでは、「お風呂の残り湯で洗濯する」(30代男性)といった定番の節約術のほか、「トイレの水は2回目で流す」(40代女性)などの回答もありました。そのほかにも、娯楽費では「夫婦で台湾旅行を予定していたが取りやめた」(50代男性)など、せつかくの楽しみをあきらめているという回答が多くありました。

他方、“スッキリ型”の見直しとしては、「住宅ローンを借り替えた」(30代男性)、「生命保険と自動車保険を見直して、掛け金の安いものに変えた」(50代女性)など、出費の大きい、住宅や保険に関する見直しをしたとの回答がみられました。そのほか、スマートフォンを最近話題の「格安SIMへ移行した」(40代男性)といったように、流行に乗った見直しを行った方もいるようです。

◆2014年4月の消費増税以降に行った、節約や見直しの具体的な行動
 ※自由回答抜粋

ガマン型節約			
食費(外食費)	水道光熱費	娯楽費	衣類・雑貨費
食料品は特売の品を買う 40代女性	お風呂の残り湯で洗濯する 30代男性	レジャー費を抑えた 20代女性	ファストファッションブランドを着る 30代女性
食材の買い溜めをやめ、 使い切るようなメニューに している 50代女性	冷蔵庫の中に 透明なシートをつけて 冷気を逃がさない 20代女性	より一層、図書館で 書籍を借りるようになった 30代男性	衣類は安く購入し、 できるだけリサイクルショップや オークションに出品する 20代女性
飲み会の参加を減らした 40代男性	トイレの水は2回目で流す 40代女性	夫婦で台湾旅行を 予定していたが取りやめた 50代男性	クリーニングをやめて、 自分で洗濯する 30代男性

スッキリ型節約			その他
住居費・生命保険	通信費	車(バイク)の維持費	
住宅ローンを借り替えた 30代男性	携帯電話のプランを変更した 20代男性	車を軽自動車に変えた 40代男性	子供の塾をやめた 30代女性
家賃交渉をした 30代女性	格安SIMへ移行した 40代男性	自動車保険を見直した 40代女性	カードで買ってポイントを得る 30代男性
生命保険と自動車保険を 見直して、掛け金の安い物に 変えた 50代女性	ポケットWi-Fiを解約した 50代男性	車を1台手放した 40代男性	家計簿をつけて、月に どれくらいの金額を使ったのか 把握するようにした 20代女性

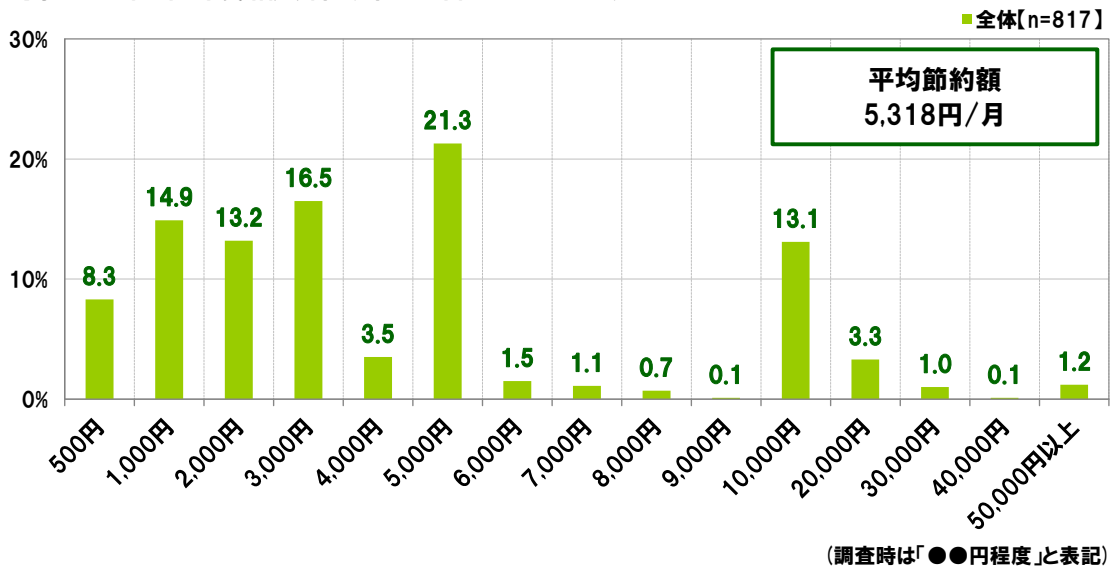
■消費増税以降に実施した見直し。効果のほどは？

- ◆ 月々いくら節約できた？ 平均額は「5,318円」。月に「50,000円以上」という人も！
- ◆ 節約がもたらす意外なメリットも！？「家族で食卓を囲む回数が増えた」「ダイエット」節約が「子どもの金銭教育になった」との声も！

昨年4月以降に行った見直しは、どの程度効果があったのでしょうか。2014年4月の消費増税以降に見直して節約したものがあつた方(817名)に、具体的に月々いくら節約できたかを聞きました。

月に「5,000円程度」との回答がもっとも多く、5人に1人の割合(21.3%)となりました。「1,000円程度」(14.9%)、「2,000円程度」(13.2%)、「3,000円程度」(16.5%)、「10,000円程度」(13.1%)といった金額帯にも回答が集まっています。なかには「50,000円程度以上」という方も1.2%と少ないながらもいるようです。また、平均節約額は5,318円となりました。

- ◆2014年4月の消費増税以降に行った見直しで、具体的に月々いくら節約できたか(単一回答)
対象:2014年4月の消費増税以降に見直して節約したものがあつた方



さて、このような節約は、金銭面以外でもメリットをもたらすのでしょうか。全回答者(1,000名)に、節約をして、“お金以外の点で良い方向に変化した経験”について聞きました。

回答では、「レジャーとしての外出が減り、家で家族といる時間が増えた」(50代女性)、「家族で食卓を囲む回数が増えた」(20代女性)など、節約に一丸となって取り組むことで、家族関係が良くなったという声が多く挙がりました。

健康的な生活に変化したとの回答もあり、「外食が減り、高カロリーの食事が少なくなった」(50代女性)、「タクシーに乗らずに歩くようになったので健康的になった」(20代女性)など、外食費や交通費の節約が良い影響をもたらすことがあるようです。さらに、「食事の見直しで、健康になり体型も改善された」(20代男性)など、ダイエットにつながったとの回答も挙がっています。

また、「光熱費の見直しで、エコな生活になった」(30代女性)、「節約と思わず、エコを心がけるようにしている」(40代女性)という方のように、エコを心がけて行動しながら、結果的に節約につながっている方もみられました。

そのほか、「今まで知らなかった食品や調味料を知ることができた」(30代女性)など新発見、「金銭感覚が養われた」(30代男性)、「子どもの金銭教育になった」(50代男性)などマネーリテラシー面の成長といった回答も見受けられました。

◆節約をして、お金以外の点で良い方向に変化した経験
 ※自由回答抜粋

家族関係	健康
家族との絆が深まった 30代男性	外食が減り、 高カロリーの食事が少なくなった 50代女性
レジャーとしての外出が減り、 家で家族といる時間が増えた 50代女性	タクシーに乗らずに歩くようになったので 健康的になった 20代女性
夫婦関係が良好になった 20代女性	通勤手段を車から自転車に変えたら 血糖値が下がった 30代男性
家族で食卓を囲む回数が増えた 20代女性	食事の見直しで、健康になり 体型も改善された 20代男性
エコ	その他
光熱費の見直しで、エコな生活になった 30代女性	今まで知らなかった食品や調味料を 知ることができた 30代女性
節約と思わず、 エコを心がけるようにしている 40代女性	徒歩や自転車で近場に出かけるので、 四季を改めて感じた 50代女性
省エネに真剣に取り組むようになった 50代女性	金銭感覚が養われた 30代男性
物を大切にするようになった 30代女性	子どもの金銭教育になった 50代男性

■2017年4月に予定される10%への消費増税に向けて、今年見直したいものは？

- ◆ **消費税10%に向けても、「外食・飲み会」などの“ガマン型節約”が主流！？**
- ◆ **次の節約ではどこに切り込む？ 今年、「通信費」が見直し対象として注目度アップ**
- ◆ **人生で2番目に高い買い物「生命保険料」を見直す、わずか1割**

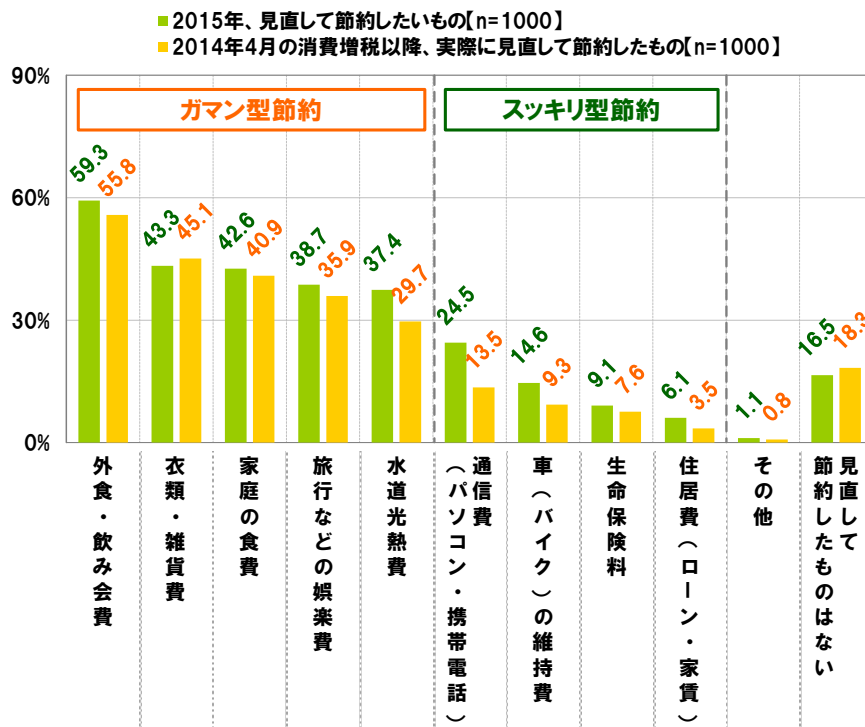
2017年4月には消費税10%への増税が予定され、昨年4月の8%への増税同様に、家計に対して影響を及ぼすことは想像に難くありません。そこで、全回答者(1,000名)に、消費税10%への増税に向けた対策として、今年(2015年)、見直して節約したいと思うものについて聞きました。

最多回答は「外食・飲み会費」(59.3%)で、以下、「衣類・雑貨費」(43.3%)、「家庭の食費」(42.6%)となりました。先を見据えた節約としても、“ガマン型”が主流のようです。

他方、“スッキリ型節約”のなかでも大きな効果を得やすい「生命保険料」(9.1%)や「住居費(ローン・家賃)」(6.1%)は、1割未満にとどまっています。[ライフネット生命で保険を見直して「保険料が削減できたご契約者さま」の平均削減額は、1ヶ月平均9,014円、年間で108,168円相当^{*1}](#)にもなっています。大きな節約が見込める可能性のある生命保険の見直しを、2015年の家計対策の1つとして検討されてはいかがでしょうか。

また、昨年4月以降に実際に見直して節約したものと比較すると、今年見直したいと回答した割合が5ポイント以上高かったのは、「水道光熱費」(見直したい37.4%、見直した29.7%)、「通信費(パソコン・携帯電話)」(同24.5%、13.5%)、「車(バイク)の維持費」(同14.6%、9.3%)の3項目で、特に「通信費」は11.0ポイント差となりました。今年は「通信費」にも注目です。

◆消費税10%への増税に向けた対策として、今年(2015年)、見直して節約したいと思うもの(各複数回答)



*1 2014年1月29日～2月6日のご契約者さまアンケート
 有効回答3,401名のうち1,278名が「保険を見直して保険料が削減できた」と回答。1,278名の月額保険料の平均削減額は9,014円で、51%が保障内容を「減らした」、23%が「増やした」、26%が「変わらない」と回答。

■もしも、人生を見直せるなら？

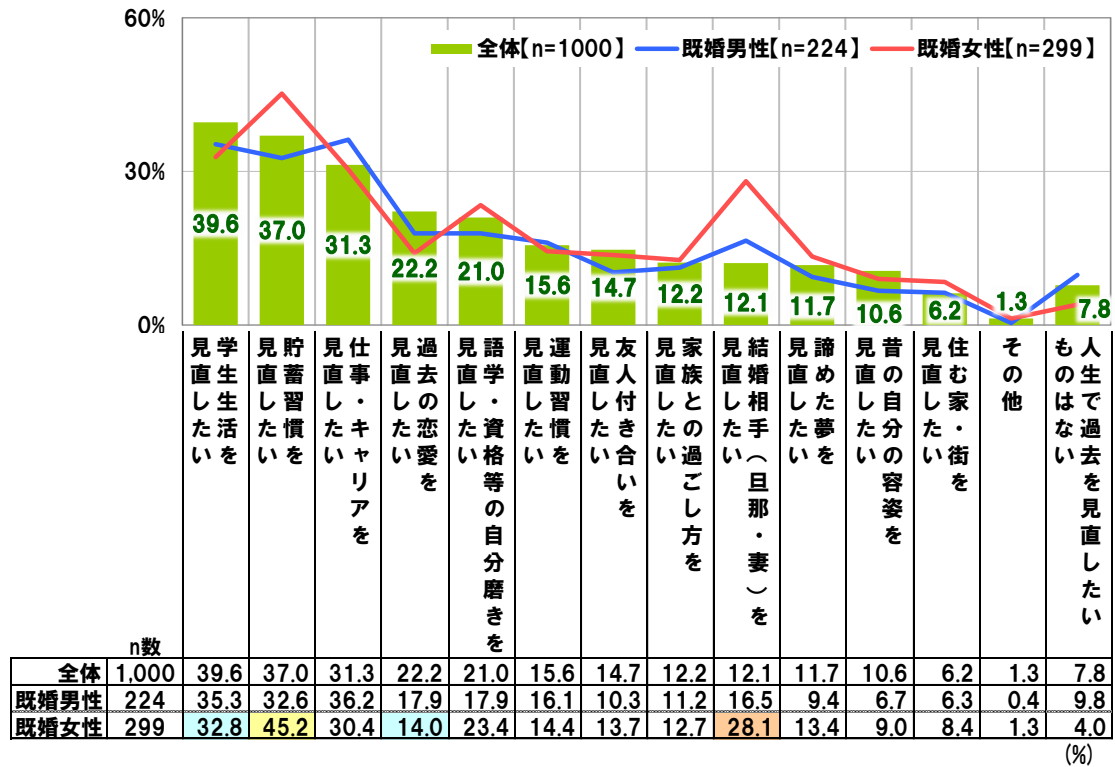
- ◆ 人生で見直したいもののトップは「学生生活を見直したい」4割
- ◆ 3割が「仕事・キャリアを見直したい」
- ◆ 結婚後「残念な夫」になってない？ 既婚女性の3割が「結婚相手を見直したい」

最後に、全回答者(1,000名)に、もし自身の過去を見直しできるとしたら、何を見直したいと聞いているか質問しました。

もっとも回答が多かったのは「学生生活を見直したい」で4割(39.6%)となりました。以下、「貯蓄習慣を見直したい」(37.0%)、「仕事・キャリアを見直したい」(31.3%)が3割台、「過去の恋愛を見直したい」(22.2%)、「語学・資格などの自分磨きを見直したい」(21.0%)が2割台で上位回答となりました。

既婚者について男女別にみると、「結婚相手(旦那・妻)を見直したい」は、既婚男性が1割半(16.5%)に対し既婚女性は3割(28.1%)と2倍近い割合になり、女性のほうが、パートナーを選び直したいと思っている割合が高い結果となりました。

◆もし自身の過去を見直しできるとしたら何を見直したいか(複数回答、最大3つまで) 既婚者・男女別



■■調査概要■■

- 調査タイトル:消費増税から1年。2015年、今年こそ見直したいものに関する調査
- 調査対象:ネットエイジアリサーチのモバイルモニター会員を母集団とする
20～59歳の男女
- 調査期間:2015年2月11日～2月16日
- 調査方法:モバイルリサーチ
- 調査地域:全国
- 有効回答数:1,000サンプル(有効回答から各性年代1,000サンプルを抽出)
(内訳)20代・30代・40代・50代×男女 各125名
- 実施機関:ネットエイジア株式会社

■■報道関係者様へのお願い■■

本リリース内容の転載にあたりましては、「ライフネット生命調べ」という表記をお使い頂けますよう、お願い申し上げます。

- 会社名 : ライフネット生命保険株式会社
- 代表者名 : 代表取締役社長兼 COO 岩瀬 大輔
- 設立 : 2006年10月
- 所在地 : 東京都千代田区麹町二丁目14番地2 麹町NKビル
- 業務内容 : インターネットを利用した生命保険の販売
- ホームページ : <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>

本件に関するお問い合わせ先

ライフネット生命保険株式会社 マーケティング部:関谷
TEL:03-5216-7900

調査協力会社:ネットエイジア株式会社

◆ ライフネット生命について URL: <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>

ライフネット生命保険は、相互扶助という生命保険の原点に戻り、「正直に経営し、わかりやすく、安くて便利な商品・サービスの提供を追求する」という理念のもとに設立された、インターネットを主な販売チャネルとする新しいスタイルの生命保険会社です。インターネットの活用により、高い価格競争力と24時間いつでも申し込み可能な利便性を両立しました。徹底した情報開示やメール・電話・対面での保険相談などを通じて、お客さまに「比較し、理解し、納得して」ご契約いただく透明性の高い生命保険の選び方を推奨し、「生命(いのち)のきずな＝ライフネット」を世の中に広げていきたいと考えています。

ライフネット生命保険株式会社